

(5) ペリヤジ飼育試験

I 調査目的

新魚種の再生産技術を開発し、内水面漁業の振興をはかる。

II 試験内容

1. 試験期間 昭和54年4月22日～昭和55年3月31日
2. 試験場所 十和田市相坂字白上 青森県水産試験場相坂養魚場
3. 担当者 養魚場長 三田 治
主任研究員 金沢 宏重
技能技師 松田 毅
" 松田 銀治
4. 発眼卵導入先 ソビエト社会主義同盟共和国
5. 発眼卵収容年月日 昭和54年4月22日
6. 収容卵数 約10万粒
7. 調査項目 飼育観察

III 試験結果

平均卵重量 5.3 mg 、平均卵径 1.9 mm 、水温 12.9°C 、ふ化方法は前年度と同じ水槽（長さ 153 cm 、巾 97 cm 、深さ 50 cm ）に、ふ化盆（ 1.8 mm 目）を装置して、ふ化終了後これを取り除き、飼育槽とした。

注水量 100 ml/s の流水式で死卵は少なかったので、マラカイトグリーンの薬浴は行なわなかった。

4月23日ふ化開始し、5月2日ふ化終了した。

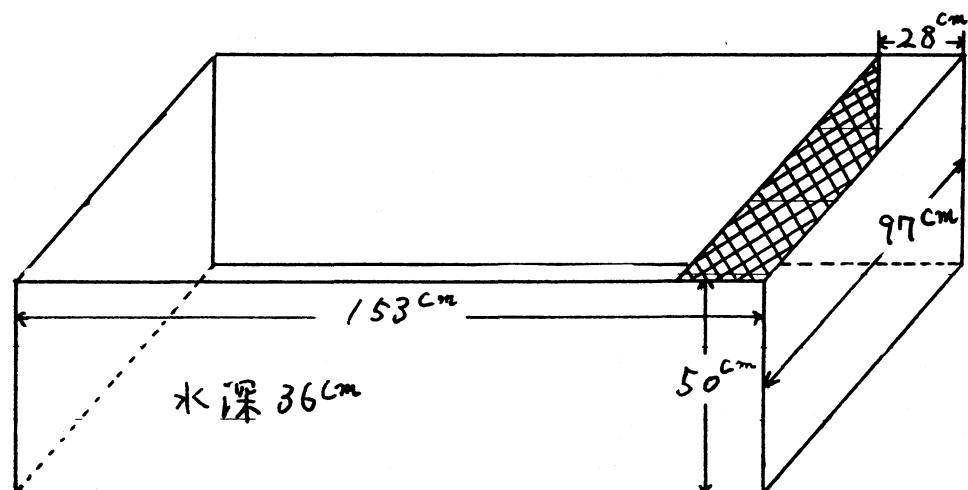
ふ化開始から終了まで、10日間もかかるので、ふ化終了後当日から餌付を始めた。

初期餌料に予定していたワムシの発生が悪かったので、急遽ブラインシュリンプから始めた。摂餌状況は良好であったが、1週間目頃から急に大量のへい死が出たので、ミジンコ、マス用配合餌料に餌料を変えたが、配合餌料への切替え時にもへい死の発生が多く、奇形魚（エラ蓋が外側に開く）が多くみられた。この原因については、餌料（蛋白、ビタミンD）との関係が考えられるので、鯉用配合餌料と鱒用配合餌料と比較検討中である。

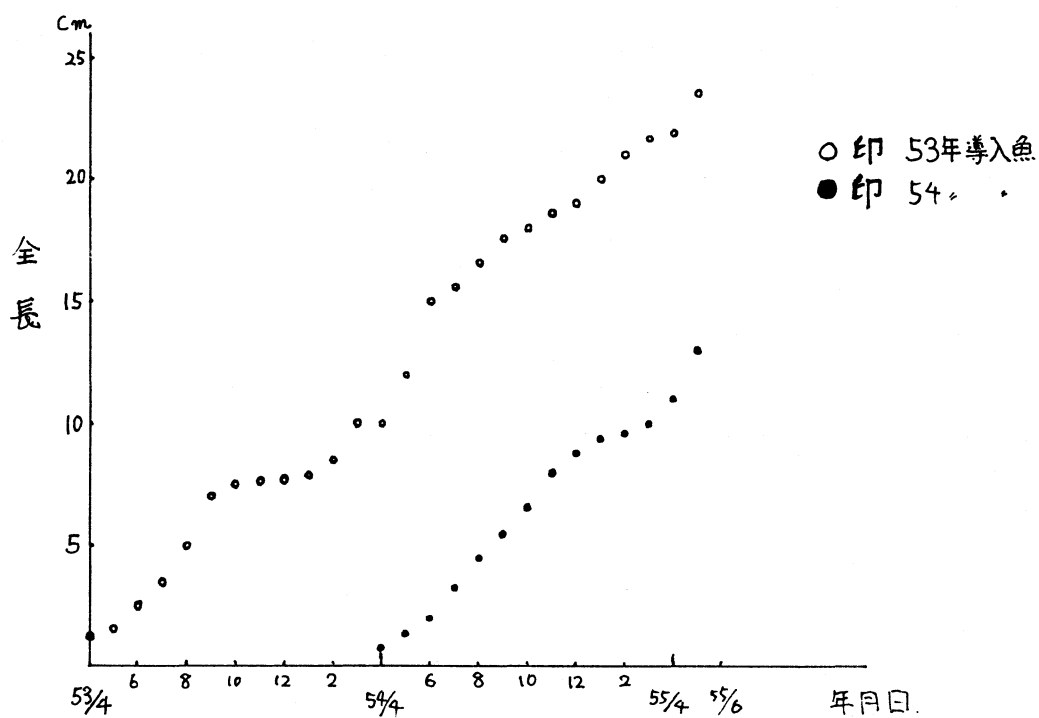
初期餌料ワムシから始めた場合の歩留り 12ヶ月目 7.3%

初期餌料ブラインシュリンプから始めた場合の歩留り 12ヶ月目 1.1%

ふ化飼育は、第1図に示した飼育槽を使用し、成長状況は第2図のとおりである。



第1図 ふ化，飼育槽



第2図 ペリヤジの成長曲線